

【運営方針5】効率的・効果的な運営

【評価基準】 A:大きく上回る B:上回る C:概ね達成 D:やや下回る E:下回る

【基本方向】効率的な情報共有体制の確保と効率的な業務執行体制づくり					
評価項目	評価目標	具体的方策	取組状況	評価	次年度に向けた改善策
1 職員の教育能力の向上	(1) 職場研修の実施回数: 6回	① 研修会への参加及び開催【継続】 指導職員の教育能力の向上のため、研修会への参加や職場研修等を実施する。	・ 毎月開催している指導職員会議において、指導経験の豊富な職員が学生の指導法や日々の授業の組立て方等について4回研修を行った。コロナ禍により外部の研修会自体が大幅に少なくなったが、開催された研修会に関する研修報告を1回行った。 * 職場研修を5回実施し、概ね目標の6回を達成したことから、「C」評価とする。	C	・ 来年度も指導経験の豊富な職員による職場研修会を実施する。なお、指導職員会議では十分な時間が取れない場合もあることから、担任会議等、別の会議での開催を検討する。 ・ 指導職員が積極的に研修会に参加し、その内容を指導職員全員に復命し、意見交換する取組みを継続して行っていく。
	(2) 公開授業の参加・実施: 各2回	② 公開授業への参加及び開催【継続】 指導職員が、高等学校等の公開授業に参加して指導方法等を学ぶとともに、農大内部でも公開授業を行い、職員間で他学科の講義や実習について相互に学び合い、教育能力の向上を図る。	・ コロナ禍により新庄神室産業高等学校と新庄養護学校の公開授業が中止となったため、参加できなかった。 ・ 校内で公開授業を10月と2月の2回実施し、各授業内容に関する意見を参加教員から聴取し、指導職員会議にて議論した。 * 外部の公開授業は中止となったことから、評価なし。内部の公開授業は予定通り2回実施したことから、「C」評価とする。		(2) C 公開授業の参加 (-) 公開授業の実施 C …(2回)
2 組織的な運営体制の強化	(1) 各種会議の実施率: 100%	① 各種会議の開催【継続】 経営会議を毎週開催し、学校運営の基本方針や懸案事項に対する対応方針を決定し、職員会議や指導職員会議等において情報共有するとともに、必要に応じて教授会等で具体的な進め方を検討し、課題等に迅速に対応する。	・ 経営会議(校長、副校長、事務局長、教務・調整担当等の8名をメンバーとする。)の開催(毎週)、職員会議・指導職員会議・担任会議の開催(毎月)、教授会の開催等により、情報共有を図るとともに、必要な事項を協議した。 ・ 新型コロナウイルスに対する対応策案について、校長をトップとする対応チームを結成し、迅速にミーティングを行い、適切に対応した。	C	・ 今後も、課題の内容に応じて各会議を開催し、関係職員で、具体的かつ効率よく協議し、対応していく。 ・ 新型コロナウイルス対応については、今年度と同様、対応チームが中心となって、迅速に対応する。
		② 職員間の情報共有【継続】 毎日の朝会において、各学科の実習取組状況や学生の状況等を把握するとともに、農場・施設管理等の部門毎の運営部会の取り組みを把握し、日常の校務を効率的かつ確実に実施する。	・ 毎日の朝会において、各学科の実習取組みや学生の状況等を把握するとともに、9つの運営部会(農場等管理運営部会、施設管理運営部会、機械管理・利用調整部会、体育部会、文化・広報部会、環境美化部会、学生・寮生活指導部会、農大市場等運営推進部会、GAP推進運営部会)の取り組みを把握し、日常の校務を効率的かつ確実に実施する。 ・ 新型コロナウイルスの対応策案については、緊急を要する場合は多かったことから、全職員を緊急に招集し、対応を指示した。		・ 朝会では経営会議等で決まった対応方針等を全職員に伝え、意識の共有化を図ることで、迅速な対応につなげていく。
3 県の重点施策等や社会情勢に対応した学校運営の取組み	(1) 学校評価: C以上100%	① 学校評価の実施【継続】 本校の運営方針は、本県の重要施策等に沿って進め、地域農林業を支える担い手の育成を第一義とする教育・研修に取り組むとともに、毎年度、農林大学校運営評議委員会の評価に基づき取組み内容等の改善を図る。	・ 5つの運営方針ごとに、評価項目、評価目標等を設定し、学校運営評議委員より評価を受けた。 * B評価(1運営方針: 20%)、C評価(4運営方針: 80%)で、C評価以上が100%であったことから、「C」評価とする。	C	・ 次年度以降も、職員会議や学生アンケート等により課題を抽出するとともに学校運営評議委員会の評価を踏まえて、教育計画の編成等を行っていく。
	(2) 学生の満足度: 80%	② 学生からの評価の実施【継続】 学生による学習及び生活等の満足度に関するアンケートを実施し、これに基づいた改善を実施する。	・ 全学生を対象として、日頃の学習内容や寮生活、学生会活動、サークル活動等に関するアンケート調査を2月に実施した。 ・ アンケート調査に基づき、改善が必要な案件については、学生会役員等との打ち合わせを行い、改善を図った。 ・ 今年度は、コロナ禍により学生の活動が大きく制約を受けたことから、学生会と話し合いながら、学校行事(農大市場、芋煮会、体育祭など)を企画・運営した。 * アンケート調査の「農大に入校して良かったか」の設問に対する学生の回答で、5段階評価の4以上の割合が85%であったことから、「C」評価とする。		・ 今後とも、コロナ禍でも学生が充実した学校生活を送れるよう、学生へのアンケート調査と学生会役員との打合せを実施し、課題の改善を図っていく。

自己評価	評価
<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍により研修会自体が中止となるケースが多かったため、研修復命を十分にできなかったが、職員の教育能力の向上のため、職場研修を5回行うとともに、校内での公開授業を2回行うことができ、職員の教育能力の向上を図ることができた。 学校運営に必要な事項は、各種会議で効率的に協議して迅速に対応した。また、学生の授業や寮生活での様子等を朝会や担任会議で情報共有しながら、学生指導に活かすことができた。特に新型コロナウイルス対応については、迅速に意思決定を行い、スムーズな学校運営を行うことができた。 学校評価については、運営評価委員の意見を取り入れながら、県の重点施策に沿って効率的な学校運営を実施した。 	C

学校関係者評価(意見・要望等)→現在の取組状況・次年度の改善策	学校関係者評価(意見)	評価
<ul style="list-style-type: none"> 業務執行には、コロナ禍にあって、さらに積極的な情報共有が、必要なことから、さらに拡充して欲しい。 → 日々、状況が変化するコロナ禍において、職員間における情報の共有化が必須であることから、全職員が参集する毎日の朝会などを中心に継続した取組みを進めていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 寮生活の中、コロナのクラスターになってしまわないか心配であったが、教師・学生共々の努力で防げたのは大変良かった。緊張した生活でなかったかと案じる。 	C